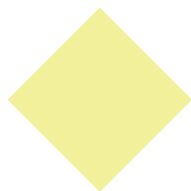
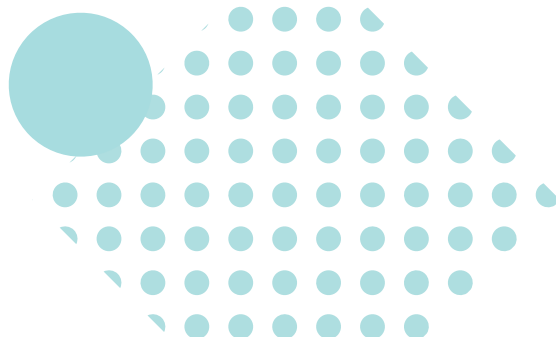
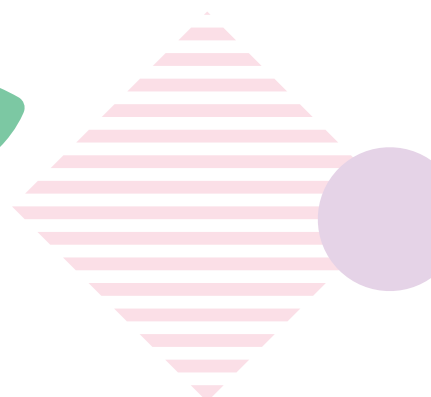


2026 

生命環境学部案内

Faculty of Life and Environmental Sciences

自然と社会の共生科学の創生



Faculty of life and Environmental Sciences

～自然科学と社会科学を総合的に学ぶ～

生命環境学部は「持続的な食料の生産と供給による地域社会の繁栄を実現するために必要となる生命科学、食品生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関し広い視野を持つ人材を自然と社会の共生科学に基づき養成する」ことを基本理念とし、理系3学科(生命工学科、地域食物科学科、環境科学科)、文系1学科(地域社会システム学科)の4学科で構成される、文理融合型の学部です。

生命工学科



地域食物科学科



地域社会システム学科



環境科学科



目次

生命工学科	3
地域食物科学科	5
環境科学科	7
地域社会システム学科	9
バイオ・メディカルデータサイエンス特別コース	11
ワイン科学特別コース	12
観光政策科学特別コース	13
SPARC教育プログラム	14
大学院	15
関連施設	16
進路・キャリア教育	17
周辺・アクセス情報	18

4年次

専門特別科目

専門特別科目の卒業研究では実践的専門職業人として必要な高度な問題解決能力を身につけます。また、特別講義などの履修を通して、企業等への就職や大学院への進学といった新たな進路に向けたさらに高度な専門知識についても深く学びます。

3年次

専門発展科目

問題解決型学習(PBL)などを通じてそれぞれの学科で発展的な専門知識を深く学びます。広範で複合的な問題に取り組みたい意欲があれば、他学科の専門科目も履修できます。これらの学びを通してより深く、より広い専門知識を獲得します。

2年次

専門基礎科目 専門発展科目

全学共通教育科目で養った5つのチカラを専門科目の学びにつなげることで新たに「学び続けるチカラ」を育みます。また、地域と連携したフィールドワークなど実験・実習系の科目を通じて実践的知識と経験を深めていきます。

1年次

全学共通教育科目 学部共通科目 専門基礎科目

地域や世界で活躍するための「生きる・語る・知る・考える・解決する」チカラを全学共通教育科目で身につけます。さらに、共生科学入門などの学部共通科目等を通して、生命、食品、環境、地域社会へ広い視野を持てる力を養います。

生命環境学部での学び

自然とひとがともに歩む豊かな社会の実現を目指して
いっしょに学び、いっしょに伝統を作っていきます。



生命工学科

入学定員 **50**名

生命工学科では、分子生物学、生物学、細胞生理学などの生命科学の基礎を学ぶことができます。そして哺乳類の発生やバイオインフォマティクス、応用微生物学、蛋白質構造生物学、ナノバイオテクノロジー等を習得することで、生殖補助医療や医療品開発、動物産業、食品生産・衛生、健康増進、バイオエネルギー、環境保全などに関する新しい技術を創出する能力を身につけた、次世代のバイオ産業を担う人材を養成します。

生命工学科、バイオ・メディカルデータサイエンス (BMDS) 特別コースにおける学び

実験実習を重視した実践的教育体制

生命工学の基礎知識・技術をしっかり学ぶ

- ◎生物学概論 ◎基礎有機化学 ◎生命研究倫理学 ◎基礎微生物学 ◎生命統計情報学
- ◎細胞生理学 ◎構造生物学 ◎発生工学 ◎創薬概論など

バイオモデル

- ◎生命科学
- ◎医薬産業
- ◎食品産業

微生物・食品衛生モデル

- ◎発酵、食品産業
- ◎製薬産業
- ◎環境問題

バイオ・メディカルデータサイエンスモデル

※11ページで特集

- ◎生命情報解析
- ◎薬理、免疫学
- ◎数理・データサイエンス

化学/生化学/微生物学/分子生物学/細胞生物学/発生工学に関する学生実験(3年次)および卒業研究(4年次)を通じた実験スキルや解析力の修得

有用物質生産、食品、医学・製薬などの分野の技術者、研究者になる。

- ◎食品系製造業(食料、飲料、醸造等)
- ◎化学系製造業(医薬、化粧品、香料など)
- ◎医療系産業(機器、分析など)
- ◎不妊治療施設・クリニック(胚培養士など)
- ◎学術・研究機関
- ◎環境産業(廃水処理、環境分析)
- ◎農業関係法人(JAなど)
- ◎国家公務員 ◎地方公務員

INTERVIEW

在学生からのコメント

私は人の役に立つ技術を持つ職業に就きたいという夢があり、胚培養士を目指しています。生命工学科では、生殖補助医療に関する知識や技術を学べることを知り、入学を決めました。仲間と意見を交わしながら研究に集中できる環境が整っており、夢に向かって日々成長を実感できる大学生活を送っています。



3年生／北海道出身

授業紹介

学生実験

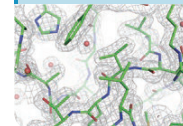
核酸(DNA、RNA)及びタンパク質の発現や定量解析、微生物の培養/単離、動物の生殖細胞や組織の観察、多能性幹細胞の分化誘導や遺伝子導入などを行います。生命科学のさまざまな分野で必要とされる実験技術や解析手法を体系的に習得することができ、卒業研究や就職、大学院進学の一助となります。



所属教員・研究テーマ

ナノバイオテクノロジー分野

タンパク質の立体構造解析



タンパク質は原子レベルで設計された構造に基づき、驚くべき機能を発揮します。私達はタンパク質の立体構造を実験的に決定し、生物の仕組みを理解する研究を行っています。



教授 大山 拓次

機能性金属微粒子を活用したナノメディシン開発



金属微粒子は形状やサイズによって特性が異なります。この特性を利用して、界面に生体活性を修飾したナノ粒子型無機有機ハイブリッド物質を構築して創薬技術の開発を目指しています。



准教授 新森 英之

動物発生・生殖工学分野

哺乳類の発生と転写調節、エピゲノム制御の研究

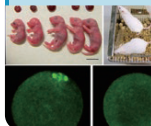


ゲノムの上にある遺伝子の使われ方について、DNAの配列情報によらないDNAの修飾による転写調節や、これらを解析するために必要が技術開発を中心に研究をしています。



教授 幸田 尚

哺乳類胚の環境による将来の個体形質の獲得

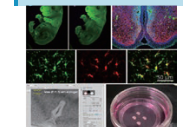


哺乳類の胚が発生する際の栄養環境が将来糖尿病や肥満のリスクの一つになることがわかってきました。その仕組みを解明し、予防や治療に貢献したいと研究をしています。



教授 岸上 哲士

性差の観点から器官や病気を科学する

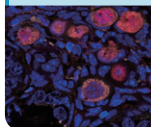


病気の発症率や器官には個人差があり、性差があります。このような違いはどのような仕組みで形成されるのか?私たちは遺伝子、細胞、組織レベルで性差形成機構を明らかにします。



教授 鈴木 堅太郎

原始卵胞に基づく新たな生殖補助医療技術への挑戦

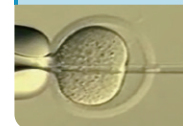


卵子発生の基点である原始卵胞に注目し、卵子形成や加齢による機能低下の仕組みを研究しています。そして卵子側からの新たな生殖補助医療技術の確立を目指しています。



教授 永松 剛

核移植による体細胞初期化に関する研究

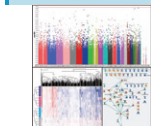


“マイクロマニピュレーター”を用いることで、体細胞の核が受精卵の状態に戻る「クローン」技術を駆使しながら、絶滅動物の復活など、まるでSFのような世界に迫ります。



教授 若山 照彦

精神神経疾患の分子機序解明と治療法開発

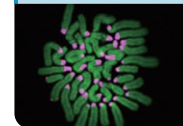


主に依存症や自閉症など精神疾患における原因遺伝子の特定や、その基盤にある遺伝子メカニズムの解析を行い、精神疾患の寛解に向けた治療薬の開発を目指しています。



准教授 笠井 慎也

生命萌芽を保証する全能性獲得機構の解明



たった1個の受精卵から生命が萌芽するには全能性の獲得が重要です。私たちはその制御機構を明らかにし、生物学のみならず医療にも貢献することを目指します。



准教授 石内 崇士

哺乳類は“宇宙で繁殖”することができるか

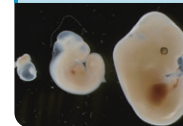


無重力かつ地上の数百倍の放射線が飛び交う宇宙空間へ、人類は将来、進出できるのか。マウスの精子や卵子、受精卵を宇宙へ打ち上げて、その可能性を明らかにします。



准教授 若山 清香

ウイルス遺伝子の機能から探る哺乳類発生と進化



私達は「ウイルス感染によって誕生した哺乳類だけが持つ新しい遺伝子」群の機能探索を通じて、哺乳類発生システムの成立・進化の一端を明らかにすることを目指しています。



助教 志浦 寛相

動物細胞を常温保存するための技術開発



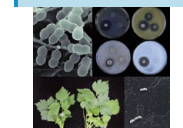
動物細胞は、生命科学や農業、医療へ利用するために長期保存が必要です。しかし細胞は常温保存できないため、インスタント食品のような保存技術と社会貢献を目指します。



助教 伊藤 大裕

微生物機能・生態応用工学分野

希少放線菌からの医薬品開発



希少放線菌は医薬品探索の最後のフロンティアと言われています。我々は様々な方法を開発し、希少放線菌のコレクション化を行い、医薬品開発のための基盤整備を行っています。



教授 山村 英樹

微生物のチカラでSDGsを実現!

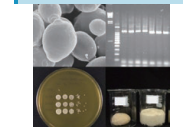


自然界には微生物をはじめ驚異的な能力をもつ生物が多くいます。彼らのチカラを発掘し、化石資源に頼らずに廃棄物からエネルギーや工業原料をつくりだす研究を行っています。



准教授 大槻 隆司

酵母の高機能化や新規用途開発等の研究

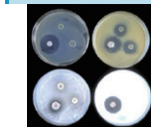


有用微生物である酵母は発酵食品や医薬品、化粧品の製造など幅広い産業に用いられています。私たちは酵母の高機能化や新規用途開発等のための研究を行っています。



准教授 中川 洋史

希少放線菌からの新規抗菌物質の単離・構造解析

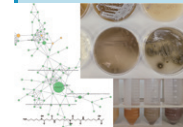


天然物化学の研究を行っており、希少放線菌から抗菌物質の精製を行い、機器分析による構造解析を行っています。新規天然物を探索して、医薬品開発に役立てています。



助教 小久保 晋

希少放線菌のポテンシャル開発



希少放線菌は、多様な医薬品を作ることが出来るが、その多くが休眠していると言われています。私たちはそのポテンシャルを引き出す研究で、創薬の発展に繋げていきます。



助教 武 晃

※BMDSコースの学生は、4年次への進級時に、医学部医学科の研究室への配属を選択できます。(5名程度/年、R7年度現在。詳しくは11ページを参照)

地域食物科学科

入学定員 **37**名

地域食物科学科では、食物（食品製造、食品栄養、園芸）およびワイン製造に関する知識・技術（微生物、機能成分、果実遺伝子）を学ぶことができます。

バイオテクノロジーを駆使した果樹や野菜等の農産物の栽培、食品製造の科学的理解、栄養・有用成分の解析と利用、ワイン醸造技術等を課題に、食物生産から食品製造までのプロセスを包括的に学び、人類の直面する食糧問題に取り組める人材を養成します。

地域食物科学科、ワイン科学特別コースにおける学び

基礎から応用、そして実践に繋がるカリキュラム

食物の基礎知識・技術をしっかり学ぶ

◎果樹、農作物の栽培 ◎微生物学 ◎食品製造学 ◎生物学 ◎栄養学など

食物科学を深く学ぶ

- ◎農産物の生産
- ◎食品製造の科学
- ◎食品微生物の分子生物学的解析と利用
- ◎食品成分の栄養学と有用成分の利用

ワインの科学を深く学ぶ

- (ワイン科学特別コース※12ページで特集)
- ◎ブドウ栽培、ワイン製造の技術
- ◎ワインの成分の分析と利用

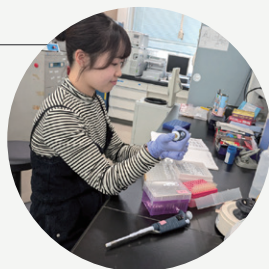
食物科学や農学の知識・技術を食料問題の解決に活かす人材になる

- ◎食品産業、醸造産業 ◎製薬産業 ◎ワイン産業 ◎果樹栽培業
- ◎食品加工産業 ◎農業生産関連産業 ◎大学院 ◎国家公務員 ◎地方公務員

INTERVIEW

在学生からのコメント

私は食べることが好きで将来は食に関する仕事に就きたいと思い、本学科を選択しました。本学科の魅力は栽培学や栄養学、微生物学など食に関した事柄を多岐にわたって学べるところにあると思います。そのおかげで私自身、最も興味のある分野を見つけることが出来ました。現在は興味のある事柄を深く学べとても充実しています。



3年生／山梨県出身

授業紹介

地域食物科学実験Ⅱ

園芸作物のうち野菜（葉菜類、果菜類、根菜類）や果樹について特徴的な種類をいくつか取り上げて、栽培方法などを学びます。附属農場などを中心に実際に栽培を行い、播種や摘果などの管理作業・収穫を行って、栽培方法を習得します。また、園地周辺の管理作業についても実施し、園地全体の管理法を学ぶことができます。※記載内容は授業の一部です。



所属教員・研究テーマ

園芸学研究部門

地球温暖化に伴う作物栽培の現状把握とその対策について



近年、地球温暖化が叫ばれ、日本でも夏が長く気温が高い日が続き、農作物も様々な影響を受けています。そのような状況下で栽培可能な作物の探索や対策を検討しています。



教授 村松 昇

持続可能な農業における土壌微生物の役割とその有効利用



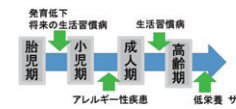
農業と環境の関係を深く探求し、持続可能な食糧生産に貢献するための研究を実施しています。室内実験とフィールドワークをフィードバックしながら研究を実施しています。



准教授 片岡 良太

食品栄養学研究部門

妊娠期から老齢期までの栄養現象の解明

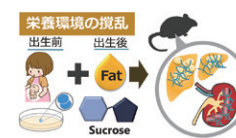


妊娠期（胎児期）、小児期、成人期、老齢期にどのような食生活をすれば健康的な生活が送れるかについて、動物実験、細胞実験、ヒトの観察研究等により検討しています。



教授 望月 和樹

出生前後の栄養環境による生活習慣病発症やそれを改善する食品の探索



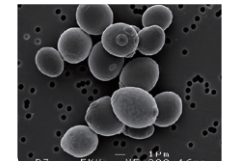
出生前（妊娠・胎生期）や出生後（欧米化の食事）の栄養環境によって発症する生活習慣病のメカニズムや、その病態を改善・予防する食品を探索しています。



助教 石山 詩織

発酵微生物工学研究部門

酵母や乳酸菌による発酵食品の開発研究

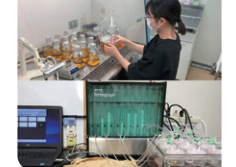


自然環境を中心に有用な発酵微生物（酵母や乳酸菌）を分離し、高品質かつ独自性のある地域ブランド食品や、地域活性化に寄与する発酵食品の研究・商品開発を行っています。



教授 柳田 藤寿

ワイン醸造に関わる酵母および乳酸菌の分類学的研究および応用研究



微生物がもたらす恩恵を私達の食生活に生かすため、特に酵母と乳酸菌の研究をしています。様々な環境からこれらの微生物を探し出し、新たな機能を探求しています。



教授 乙黒 美彩

エクステンション部門

温暖化に適応するワイン醸造技術に関する研究



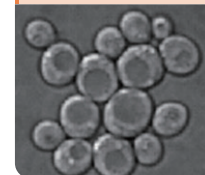
ブドウの成分や微生物叢、ワインの品質に及ぼす温暖化の影響を様々な視点から研究し、持続可能なワインづくりに役立てる適応技術の開発を目指しています。



准教授 岸本 宗和

食品製造学研究部門

酵母の遺伝情報を探る



酵母の発酵学的性質は遺伝情報と大きく関係しています。酵母の持つ様々な遺伝子を調べ、効率的利用に関連する遺伝情報を探し出し、理解する研究を行っています。



准教授 三木 健夫

食品の品質保持と機能性向上に関する研究



食品の品質劣化の要因を明らかにし、長持ちさせる加工保存方法に関する研究や、酵母やカビの発酵を利用した食品の機能性向上に関する研究を行っています。



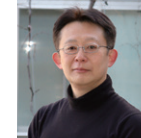
准教授 関 洋子

機能成分学研究部門

ワインのポリフェノール（タンニンと色）の制御



温暖化によるブドウのpHの上昇と赤ワインの色調への影響。現在の気候変動に適応するために、野生種ブドウやその交配種で製造した赤ワインにはタンニンや色に特徴があります。その理由を化学や醸造の視点から研究しています。



准教授 久本 雅嗣

ワインの品質やおいしさに関わる成分を明らかにする



ワイン中のどのような成分が感覚や嗜好性（おいしい、きれいな）に関わっているのかを機器分析や官能試験により解析しています。研究を通して、ワインの品質やおいしさの向上を目指しています。



助教 斉藤 史恵

果実遺伝子工学研究部門

美味しいブドウをつくり、新しい栽培法を研究する



ブドウを研究材料に基礎から応用まで多面的な研究を行っています。果皮の着色メカニズムや香り物質の合成経路を解明することでブドウ果実の高品質化を目指しています。



教授 鈴木 俊二

「植物生理学で高品質なブドウを育てる」



ブドウの生命現象を植物生理学的に解明し、その知見を活かした樹勢調整による栽培省力化や、ゲノム解析を通じた高品質ブドウの育成を目指して研究を行っています。



助教 榎 真一

病害耐性ブドウ苗の育種などのブドウ病原菌防除法の探索



ブドウに感染する病原菌の防除方法を研究しています。薬剤耐性菌の対策や育種によるブドウの病害抵抗性の向上など、農業現場へ還元できる研究成果の発信を目指します。



助教 青木 是直



環境科学科

入学定員 **30**名

環境科学科では、環境問題の背景と概要に関する「基礎知識」や大気・水・土壌・生物と人間との関わりに関する「専門知識」とともに、人間活動の影響を評価するための「環境計測技術」や環境管理・修復に不可欠な「環境保全技術」を学ぶことができます。人類の生存基盤である地球環境の理解を通じ、自然と共生した持続可能な社会の形成に貢献できる人材を養成します。

環境科学科における学び

専門的な知識・技術を得るカリキュラム

環境科学に関わる理系教養の基礎をしっかりと学ぶ

◎共生科学入門 ◎環境科学基礎ゼミⅠ・Ⅱ ◎環境科学概論 ◎基礎数学 ◎基礎物理学
◎基礎環境化学 ◎生物学概論 ◎生物資源論 ◎生物資源実習 ◎環境科学基礎実験など

環境科学に関わる専門的な知識を得る

◎大気環境科学 ◎生物多様性科学
◎森林環境学◎水圏科学
◎環境毒性科学 ◎自然保護学 など

環境科学に関わる専門的な技術を得る

◎河川実習 ◎大気科学実習
◎土壌学実習 ◎環境生物学実習
◎環境データ解析実習 など

環境科学に関わる専門的な知識・技術をもち、環境問題の解決に活かす人材になる

◎環境コンサルタント業や環境分析業等の環境産業、自治体や各種公共団体に就職
◎専門性を高めるために大学院へ進学（卒業生の約4割が大学院に進学）

INTERVIEW

在学生からのコメント

環境科学科は、アットホームな雰囲気です。新入生を迎え、4月の合宿を通じて学生や教員との絆を深めます。一年生の前期には基礎ゼミが行われ、共通の興味分野を持つ学生が集まり、教員のサポートのもと研究に取り組むことができます。少人数教育制により、興味のある分野に集中して学べる点も、この学科の魅力です。



1年生／沖縄県出身

授業紹介

環境生物学実習

森林や河川、湖沼、海洋などに生息する動植物の調査、採取、観察に加えて、様々な環境試料に含まれる微生物群集の解析などを通じ、これらの生態系と環境の物理化学的要素との関わりについて学ぶ実習科目です。写真は、山梨県韭崎市（小武川）での河川調査の様子です。



所属教員・研究テーマ

流域の物質循環と健康・生活



森林・農地・都市の水と栄養のバランス、地下水の涵養と汚染の仕組み、感染症、水や農業と福祉・経済の関係について、山梨・アジア・アフリカ・欧州の各地で調査と研究を行なっています。



教授 西田 健

衛星観測・数値モデルによる河川流量の推定



衛星観測情報や数値モデルを用いて日本・世界各地の河川流量の推定・将来予測を行い、その結果を洪水対策や水利用計画に役立てる方法について研究を行っています。



教授 石平 博

流域生態系における食物網の構造と動態



陸一河川一海洋間の物質フローの経路とダイナミクスを調べることで、流域における生物群集の維持機構を明らかにしていきます。

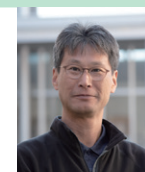


教授 岩田 智也

大気と海洋環境を対象とした光学観測

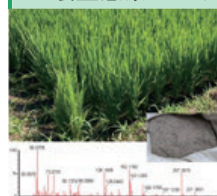


海の汚れや気候に影響を与える微粒子の量や性質を宇宙から調べる（リモートセンシングといいます）ための基礎的な研究を行っています。

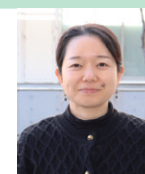


准教授 小林 拓

土壌生態系における化学物質動態



人の経済活動や農業生産と環境保全の両立を目指して、土壌生態系での化学物質汚染の実態とその影響を解明する研究をしています。



准教授 後藤 裕子

環境微生物を利用した水処理技術



微生物の力を用いた排水・上水処理技術を研究・開発し、環境に配慮しながら私たち人間が健康で安心・安全な生活を維持できる社会の構築を目指しています。



助教 亀井 樹

家畜放牧や気候変動による草原植生への影響

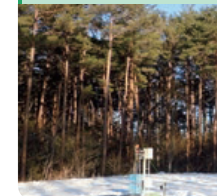


乾燥草原に生育する牧草種の被食後の再成長応答を調べています。また、野外操作実験を通して、気候変動が草原植生に与える影響を解明する研究を行っています。



助教 呼日査

大気中微量化学成分の動態と環境への影響

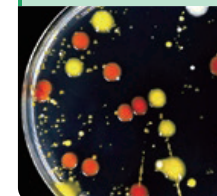


微量化学成分の大気環境中での動態についてフィールドでの観測に基づく研究を行い、これらの成分が気象や気候、生態系に与える影響の解明を目指しています。



教授 松本 潔

新しい微生物資源の開拓と利用

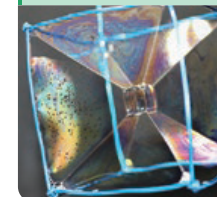


培養が難しい未知微生物の分離培養を可能とする技術の開発、取得した未知微生物を用いた環境保全や浄化、有用物質生産等に関する研究を行っています。



教授 田中 靖浩

大自然に潜む「カタチ」の不思議



動植物や大自然の景観が私たちに魅せる美しい「カタチ」を科学的に調べています。その不思議な形成メカニズムを解明することで、大自然に横たわる新しい科学法則の発掘を目指しています。



教授 島 弘幸

流域～全球スケールの水循環

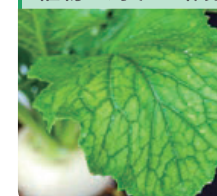


衛星・地理情報と数値モデルを駆使して、水循環と社会の関係性について、流域スケールと全球スケールの2つの視点から研究を行っています。



准教授 馬籠 純

植物に対する環境ストレスの影響

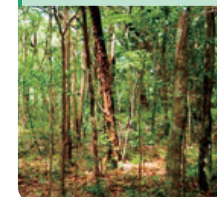


大気汚染や気候変動が植物に及ぼす悪影響の解明とその対策に取り組み、食料生産や温暖化防止などの植物が有する有益な機能の維持・発揮を目指しています。



准教授 黄瀬 佳之

森林生態系における物質循環



樹木はどのように効率よく土壌から栄養を獲得しているのでしょうか。様々な森林を比較しながら、直接は見えない地下部に着目し、土壌と樹木の相互作用の観点からその戦略に迫ります。



助教 向井 真那

地域社会システム学科

入学定員 **48名**

地域社会システム学科では、生命・食・環境の基礎を理解し、経済・経営・政治・行政・法律・地域計画・政策に関する専門的知識に加え、数理的分析手法と実践的なスキルを学ぶことができます。持続可能な社会の繁栄という観点から、新たな発展モデルの確立を目指し、民間企業・官公庁・各種公共団体などで、マネジメントのプロフェッショナルとして活躍できる人材を養成します。

地域社会システム学科、観光政策科学特別コース ※13ページで特集における学び

社会科学の総合的な知識と数理分析スキルを身につける

地域社会システムの様々な構成要素と地域発展に関する基礎知識をしっかりと学ぶ

- ◎経済学、経営学、法学、行政学、政治学など社会科学の基礎科目
- ◎統計学、基礎数学など、計量的分析方法の基礎科目
- ◎共生科学、生命科学、生物資源、環境科学など、自然との共生に関する科目

経済学、経営学を学ぶ

- ◎経済学の理論と経済現象の分析方法
- ◎経営学の理論と企業経営の分析方法

法学、政治学を学ぶ

- ◎基本的な法律知識と法学的な分析方法
- ◎政治学や行政学の理論と政策過程の分析方法

地域計画、数理分析スキルを学ぶ

- ◎地域計画の理論、方法、関連計画や政策
- ◎統計学や経済数学など、計量的な分析方法と管理方法

観光経営・観光政策を学ぶ

- ◎観光経営・観光マーケティング・観光行政・観光政策の理論と手法
- ◎観光資源を活かした地域づくりなど

民間企業や行政機関などで地域社会をマネジメントできる人材になる

- ◎国家公務員 ◎地方公務員 ◎一般企業（製造業、金融業、サービス業、観光産業、ITなど）
- ◎シンクタンク ◎起業家 ◎NGO・NPO ◎大学院進学など

INTERVIEW

在学生からのコメント

地域社会システム学科では、法律や観光、経済など多岐にわたる分野を学べるため、新たな興味や視点を発見できました。特に、地域課題の解決に挑むプロジェクトを通じて、実践的な力が身についたと感じています。幅広い学びと実践の場を得られるこの学科は、自分の可能性を広げたい方におすすめです。



3年生／長野県出身

■ 授業紹介

経営学概論

経営学は人間、組織（特に企業）、市場という三つの基本要素の相互作用を企業経営の成功という価値観から捉えようとするものです。経営学を総体として俯瞰することにより、体系的な理解を得ると同時に、基本的な理論を正しく、具体的なイメージを伴って理解することを目的としています。



所属教員・研究テーマ

方程式の数値解析、数理モデリング

世の中で起きている現象を数式を用いて表現することを数理モデリングといいいます。その数式を分析することにより、力学的な現象や経済現象などの理解や予測を目指しています。



教授 伊藤 一帆

契約上の権利（債権）を確保するための契約諸条項の研究

契約に基づく権利（債権）が確実に実現するため、所有権留保、相殺予約などの特約が契約中に盛り込まれることがあります。その歴史や発展、実際の運用について研究しています。



教授 稲田 和也

東アジアにおける立憲主義と人権

西欧で生まれた立憲主義や人権という思想と制度が、日本や中国など、東アジアの国々においてどのように受容あるいは拒絶されたのか、という問題について、思想・理論面と実践面の双方から考究しています。



教授 石塚 迅

地域の持続的発展を支える公共政策のあり方の探究

憲法にいう健康で文化的な生活が、どのような理念やしくみに基づいて保障されているのかを多角的に解明する作業を通じて、「日本型ナショナルミニマム」の全体像に迫ります。



准教授 門野 圭司

日本の政治・行政システムの特質の解明

戦後の地域開発の史的展開や政策枠組み、国と地方自治体の政治・行政改革の検証を通して、日本の政治・行政システムの特質と課題の解明をめざす研究に取り組んでいます。



准教授 藤原 真史

数理的アプローチによる都市・地域の問題解決

都市・地域の問題に対して、数理的手法を用いて科学的に解決するための研究を行っています。勘や経験に頼らない、客観的な解決策を導くことを目指しています。



准教授 宮川 雅至

文化遺産の保存活用と地域づくり・観光地づくり

文化遺産・文化資源の価値を考えるとともに、それらが地域社会のなかで受け継がれ、魅力的な社会の構築、地域づくりや観光地形成に寄与するための理論と方策を追究しています。



准教授 菊地 淑人

行政法学における基本原則の機能とその具体化

行政法には大小各種の原理や原則が存在します。それらがどのように具体化されるのかについて、法的責任の所在に着目しながら裁判所の判決や様々な制度を分析しています。



助教 若生 直志



ワーケーションやデジタルノマドなど旅先で仕事しながら長期滞在を楽しむ新しいライフスタイル

JTB グループや観光マーケティングの企業で働いていた経験を活かして、観光ビジネス全般や観光地経営、政策づくりなどに携わっています。また自分でベンチャー企業を運営していたことからスタートアップにも関わっています。



教授 田中 敦

スマートコミュニティの導入に関する研究

地域社会とエネルギーシステムの望ましいあり方を追究しています。対象地域のデータ収集に基づいたモデル分析や発達段階を踏まえたエネルギー学習指導案の開発をしています。



教授 島崎 洋一

人新世における政治のあり方

専門分野は政治学です。生態学的に維持可能で、民主的で、基本的ニーズが保障される社会のあり方について、現代政治理論・環境政治の観点から研究しています。



准教授 金 基成

消費者の心理・行動とマーケティング

企業と顧客との長期的で良好な関係性を築いていくために、商品やサービスといった企業活動との接点に関わる消費者の生活実態や行動、心理を明らかにすることを目指しています。



准教授 井上 智紀

地域住民の活動と健康に影響を与える環境要因

高齢者の運転と公共交通、買い物不便と食生活、地域のたまり場づくりなど、高齢になっても元気でくらせるまちづくりに関する研究を自治体や地域とともに進めています。



准教授 平井 寛

内戦と軍事介入、感染症対策

ある国で起きた内戦を止めるために他の国が行う軍事介入について研究しています。また、それとは別に、国際政治学の観点から感染症対策を分析しています。



准教授 小松 志朗

企業行動とその先行要因に関する統計的分析

企業内外の要因が企業行動へ与える影響について企業行動理論と行動戦略論の見地から分析しています。近年は特に、企業業績による企業行動への影響に焦点を当てています。



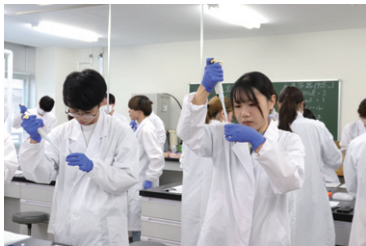
准教授 佐々木 博之

生命工学科 バイオ・メディカルデータサイエンス特別コース

【活躍できる分野・進路】 創薬系企業・情報産業・CRO系産業・基礎医学研究者・公務員など

医学・薬学の基礎知識をもち
データサイエンスのスキルを身に付けた
生命科学系専門職業人を養成

バイオ・メディカルデータサイエンス特別コース（BMDSコース）は、生命工学科に2022年4月に新しく新設されたコースです。医学・薬学の基礎知識をもち、データサイエンスのスキルを身に付けた生命科学系専門職業人の養成を目的として、生命科学・医学・薬学分野における数理・データサイエンス教育を行います。



■ BMDSコースへの配属方法について

入試は、生命工学科として一括で募集し、1年次の希望や成績等に基づいて、2年次への進級時にBMDSコースへの配属（クラス分け）を行います。^{※1}

一般選抜（前期・後期）、学校推薦型選抜Ⅰ、私費外国人留学生入試のいずれの入試で入学した場合でも、BMDSコースへの配属対象となります。

■ コースの特色

【1年次】理系教養の基礎を学びます。

【2・3年次】BMDSコースのみで開講されるデータサイエンスに関する専門発展科目の履修が可能になります（例：生命工学データサイエンス、2年次）。

【4年次】BMDSコースのうち一部の学生は、卒業研究を行う配属先の研究室に医学部の特定の研究室を選択することができます^{※2}、より医療分野に習熟できることが期待されます。医学部研究室では、アレルギー、脳・眼疾患とグリア、シナプス可塑性、脳情報動態、高次脳機能など^{※3}に関する卒業研究を行うことができます。

※1：定員や配属方法は、年度によって異なる場合があります。
※2：生命環境学部生命工学科の学生として卒業研究を行います。
※3：配属の対象となる研究室は年度ごとに変更になる場合があります。

INTERVIEW

在学生からのコメント

今後重要となるAIを活用した医療分野を学べると知り志望しました。医学部や製薬企業からの講師による講義も受講できます。そのため、生命科学からデータサイエンスまで幅広く学べ、目標を発見しやすいです。また、サークル活動などの学業以外のことも両立でき、充実した学生生活を送れる点も魅力です。

3年生／静岡県出身



地域食物科学科 ワイン科学特別コース

【活躍できる分野・進路】 食品産業・ワイン産業など

地域産業が抱える課題に対応できる
食品科学のエキスパートを育成

ワイン科学特別コースでは、ワイン製造モデルとして食品製造に熱意をもった技術者・研究者、そして地域産業が抱える課題に対応できる食品化学のエキスパートを育成します。ワイン科学研究センターの歴史と実績を活かし、ワイン製造における現象を科学的に理解するとともに、実習を通じて実践的な専門技術を学ぶことができます。

■ ワイン科学特別コースの講義

1年次からブドウ・ワインに関する授業を受講し、ワイン科学に関する最先端の知識と技術を学びます。さらに、「ブドウ栽培学実習」「ワイン製造科学実習」の実習科目や、山梨県内のワイナリーでブドウ栽培やワイン製造の現場を体験する「インターンシップ」などを通じて、食品の原料生産から加工までの実践力を養成します。



■ ピックアップ講義 ブドウ栽培学実習

気象、形態、植物生理、園芸、土壌肥料および植物病理学など様々な観点からその関連性と作業の意義について学びます。それによりブドウ栽培を多くの学術分野の観点から捉える力を身につけます。



■ ピックアップ講義 ワイン製造科学実習

ワイン科学研究センターの醸造設備を用いて、原料ブドウからワインを製造することで山梨県の重要な地場産業であるワイン製造の意義を理解します。また、ワイン製造および試醸ワインの成分分析実験も行い、ワインに含まれる食品成分の基本的な分析技術を習得します。ワインへの理解を深めるためワイナリー訪問も実施しています。



学部	地域食物科学科	大学院	生命環境学専攻
地域食物科学科・本科	ワイン科学特別コース	食物・ワイン科学コース	
1～3年次 共通カリキュラムの受講	1～3年次 共通カリキュラムの受講 + 特別コース向け講義	◆資格 【山梨大学ワイン科学士】 ワイン科学における高度な専門的知識を持つ技術者を認定するもの。指定の科目単位を取得した者は、ワイン科学士認定試験の受験資格が得られます。	
4年次 卒業研究・卒業論文執筆	ワイン科学特別コースはワイン科学研究センター研究部門に配属・卒業研究着手		

ワイン科学特別コース向け講義	1年次 ワイン科学 2年次 ワイン微生物学 ワイン醸造学 ワイン分析学 3年次 ブドウ栽培学 ワイン品質評価学 ブドウ栽培学実習 ワイン製造科学実習
----------------	---

INTERVIEW

在学生からのコメント

高校生の頃に課題研究として納豆菌について学習し、発酵と微生物について興味を持ったのでこのコースを選びました。ブドウ栽培やワイン製造、官能評価などの実習もあり、ワインについて幅広く学べる日本で唯一のコースです。



3年生／福岡県出身

地域社会システム学科 観光政策科学特別コース

【活躍できる分野・進路】 観光関連産業・公務員など

観光がうみだす新しい価値の探求

観光政策科学特別コースでは、1年次から観光先進地域等で実施する実習授業に参加し、観光産業や観光地域づくりの「現場」における学びを通じて、観光地経営（マネジメント）に関する地域志向型教育を実践しています。観光が生み出す新しい価値を探求し、観光に関する知識・技術・センスを兼ね備えた地域のリーダーとなりうる人材を養成します。

地域社会システム学科の科目のなかでも、観光系の科目を重点的に履修！

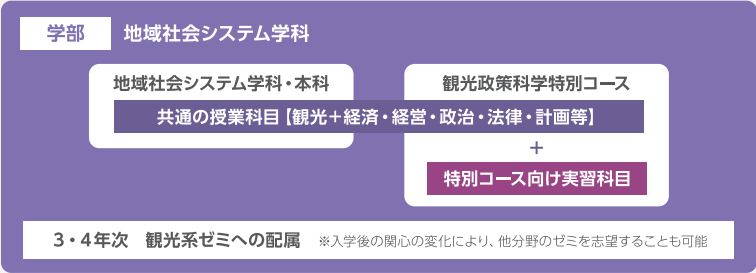
観光政策科学特別コースの学生は観光系の科目を重点的に学びます。観光系の科目は、観光政策科学に関する入門科目のほか、地域資源の保全・観光活用、観光ビジネス・経営、観光政策など多岐にわたる専門科目が開講されています。また、行政・産業の第一線で活躍する外部講師による特別講義も開講されています。

観光政策科学特別コースの学生に限定した学外での実習授業を開講！

観光先進地域、観光関連企業などにおける実習授業は観光政策科学特別コースの学生のみが履修可能で、毎年、複数科目が開講されます。座学で学んだ基礎理論を実際の現場における取組に関する理解と重ねることで学びを深めています。実習に毎年参加することで、自らの知識・経験の深まりに応じて理解できる事象の幅が広がっていくことも、学びの自信と喜びにつながっていきます。

観光の最新動向を常にキャッチ！観光系のゼミにも優先配属！

観光政策科学特別コースの学生を対象にしたメーリングリストを通じて観光に関する最新情報や学内のプロジェクトに関する情報などが共有されます。こうした情報をもとに、さまざまな活動に参加し、学びを深めることができます。



観光政策科学特別コース 向け実習科目（※）	観光政策科学基礎実習（1年生）【学内WS＋学外（1泊2日）】
	観光政策科学実習AI・AII（全学年）【学外（2泊3日）】
	観光政策科学実習BI・BII（全学年）【学外（日帰り（4回））】

※募集要項記載の学生納入金（入学金・授業料など）に加え、所定の実習費（実費）が必要となります。

【これまでの実習先（一部）】
長崎（長崎市内・波佐見・軍艦島）、佐賀（有田）、今治、しまなみ海道（サイクルツーリズム）、尾道、伊勢志摩、妻籠宿、下呂温泉、伊豆半島（伊東・熱海）、瀬戸内国際芸術祭（直島・豊島）、飛騨地方（飛騨高山・白川郷・五箇山）、善光寺界隈、高尾山、箱根、迎賓館赤坂離宮、首都圏外郭放水路（インフラツーリズム）、大手旅行会社（本社）、羽田空港CIQ施設（出入国在留管理庁、東京税関）、東京国際クルーズターミナル、会員制リゾートホテル、観光見本市（ツーリズムEXPO ジャパン）

INTERVIEW

在学生からのコメント

私は大学入学以前から旅行が好きだったので、ただただ「面白そう!」という思いから、観光政策科学特別コースへの進学を決めました。座学だけでなく、実際に観光地に赴く実習があり、観光について実践的に学ぶことができるのも魅力的なポイントです。山梨大学は自分の好きなことを突き詰められる楽しい大学だと思います。

3年生／静岡県出身

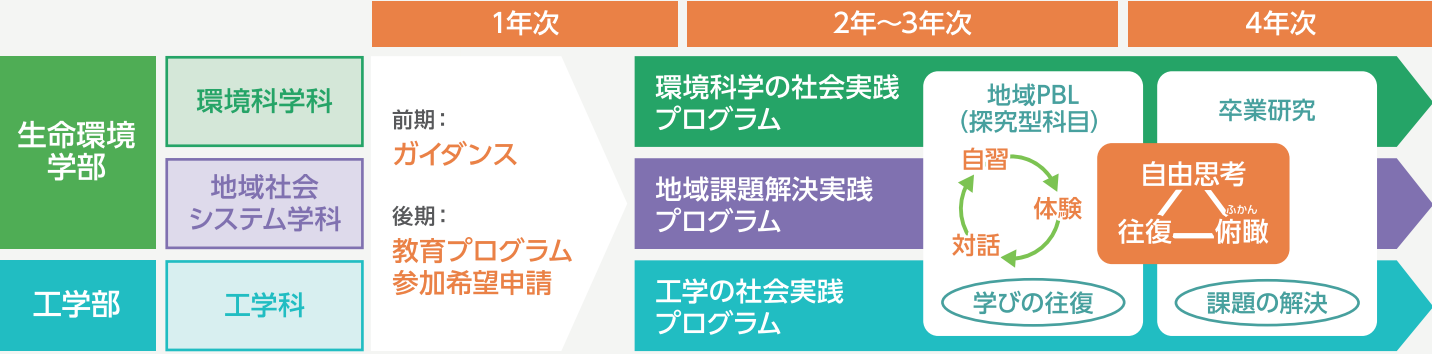


SPARC教育プログラム

地域に新しい風を、みつける!つくる!とどける!

SPARCとは”Supereminent Program for Activating Regional Collaboration”の略称で、直訳すると『地域連携活性化のための卓越したプログラム』という意味になります。文部科学省において2022年度から開始された、地域社会と大学間の連携を通じて新しい価値を創造し、分野横断的に課題解決に挑む地域人材の育成を目的とした事業です。

SPARC教育プログラムの流れ



環境科学の社会実践プログラム

人と自然のつながりにおける新しい価値の想像から創造へ

本プログラムでは、地域課題に当事者として向き合う動機を育み、地域の声に耳を傾けながら、環境破壊や自然災害による恩恵の損失を減らす行動力を培います。あわせて、風土に根ざした持続的な農林水産業を提案し、住空間を創出するなど、自然と社会の価値を再発見、再構築、あるいは新たに創造する人を育てます。

こんな望みをプログラムで実現

- 自然が好き、自然を守りたい
- 豊かな自然と両立する生活の実現に貢献したい
- 環境に関わる新しい仕事をつくりたい

魅力的な地域関連科目

- ◎富士山学 ◎地域計画学
- ◎環境科学地域PBL実習（探究型科目） ほか

活躍できる分野・進路

- 公務員 ○地域デザイナー
- 地域プロデューサー
- 環境コンサルタント
- 社会起業家（環境ビジネス）など



山梨大学のSPARC事業における教育プログラムは、山梨県立大学とも連携し、地域と密接にかかわりながら

- ✓現状を分析し、目的や課題を明らかにする！
- ✓既存の枠組みにとらわれず、これまでにないサービスやアイデアをつくりだす！
- ✓サービスやアイデアを、最適な方法で社会に向けて発信する！

これらの「価値をみつける! つくる! とどける!」を、山梨まると題材に実践するプログラムです。

地域課題解決実践プログラム

自由な思考で課題を解決し新たな地域社会を創生する

本プログラムでは、先を見通しにくい現代において必須の、自由な思考の持続を支える『教養』と自分たちの社会を『俯瞰する力』を養います。その上で、地域づくりやソーシャルビジネスなど、さまざまな現場での『学び』と『対話』と『実践』の絶えざる往復を通して、地方創生の新たな姿を探る人を育てます。

こんな望みをプログラムで実現

- 物事に主体的に取り組む力を身につけたい
- 地域おこしや、まちづくりに関心がある
- 地域課題の解決に向けて、新しい事業を起こしたい

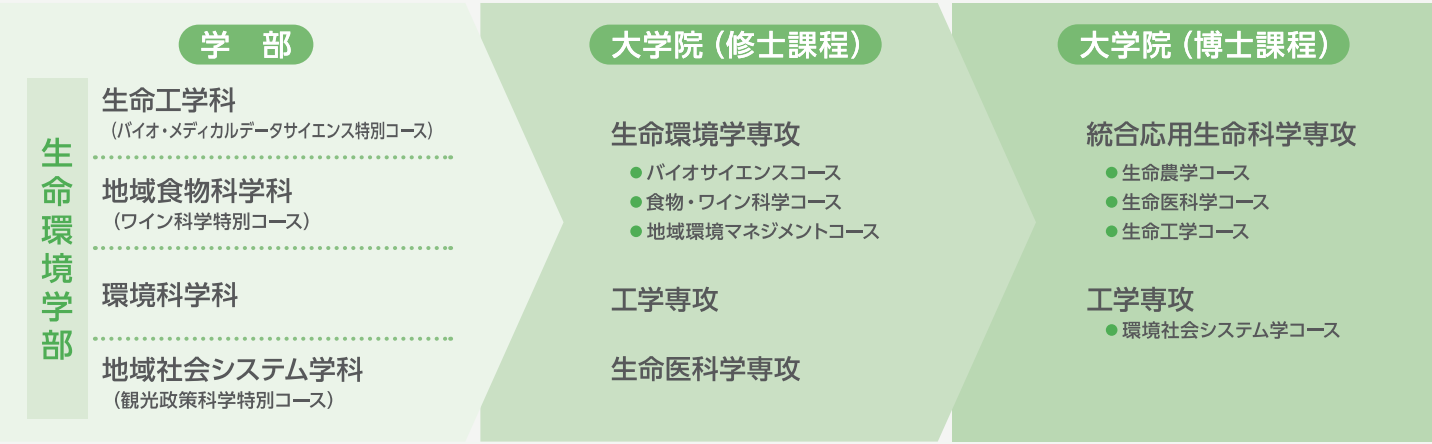
魅力的な地域関連科目

- ◎社会科学入門 ◎地域共生デザイン
- ◎地域PBL演習（探究型科目） ほか

活躍できる分野・進路

- 行政 ○金融機関
- 事業コンサルタント
- マスコミ など





生命環境学専攻（修士課程）『食と健康』『生命と環境』に関わる文理融合型の教育と研究

● 生命環境学専攻は「生命・食・環境・経営」に関する教育研究を目的としています。自然科学と社会科学の文理融合的アプローチで、人類にとって最も普遍的で重要な「食と健康」および「生命と環境」に関わる諸問題の解決に貢献できるエキスパートを育成します。本専攻には、以下のコースがあります。

● バイオサイエンスコース

生命科学を基盤とした「食と健康」、「生命と環境」に関する教育研究。

● 食物・ワイン科学コース

ワインをモデルとしながら科学的に探求し、食品産業を原料生産、加工・販売、安全から経営まで多面的に見渡せる教育研究。

● 地域環境マネジメントコース

環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関する教育研究。

● 「食と健康」および「生命と環境」に関わる課題を、社会・経済・行政システムとの関わりでとらえ、自然科学の知識で理解・分析し、技術革新や政策によって解決する意欲をもつ人を求めます。

● 所属専攻やコースに応じて、特別教育プログラム(発生工学技術開発・実践、流域環境科学、先端脳科学、生命工学ナノバイオテクノロジー、山岳科学)に参加することができます（2024年度時点）。

統合応用生命科学専攻（博士課程）医工農の分野横断的な教育と研究

● 統合応用生命科学専攻（博士課程）は2018年4月に新設されました。修士課程と同様に医工に農学を加え、医工農の分野横断的な教育を展開いたします。

生命環境学部、生命環境学専攻(修士課程)に接続する専攻であり、山梨県で初めての農学系を有した大学院博士課程で、ワインや発生工学など本学の強みを活かした教育を展開し、地域に貢献でき、グローバルに活躍できる人材を養成します。本専攻には以下のコースがあります。

● 生命農学コース

発酵・食品に関連する複数の学問分野の高度な知識と技術を修得し、食と健康及び環境に関連する産業分野で活躍できる人材を養成。

● 生命医科学コース

免疫や神経科学等の高度な専門知識と技術を身に付け、コメディカルなど医療機関等で活躍できる人材を養成。

● 生命工学コース

発生工学や関連する学問分野を含む高度な生命工学の技術と知識を修得し、生殖補助医療、再生医療やバイオ関連産業で活躍できる人材を養成。

学部附属施設

■ 附属農場

甲府市小曲町に設置された附属農場は総面積約2.6ha（サッカーコート約4面分）の施設で、場内には管理棟（575㎡）、ガラス温室（480㎡）、堆肥舎、人工気象室、植物工場などの施設があります。山梨県の特産果樹であるブドウ・桃に加え、様々な農作物を作付けし、教育・研究に利用してします。また、全学科1年次生がこの農場で「生物資源実習」を受講します。

学部教育に協力する研究センター

山梨大学にはいくつかの研究センターがありますが、そのうち発生工学研究センター・高度生殖補助技術センター・ワイン科学研究センター・国際流域環境研究センターの教員が生命環境学部の教育に参加します。これにより、最先端の研究の成果が教育の中に取り入れられます。

■ 発生工学研究センター

マイクロマニピュレーターを14セット備えた世界トップクラスの研究施設です。クローン動物やキメラ動物を作出することで、生命現象の解明に貢献するだけでなく、バイオテクノロジーによる食糧問題の解決や一流研究者の養成に取り組んでいます。

■ 高度生殖補助技術センター

不妊治療に携わる専門職である胚培養士を育成する教育研究センター（2022年4月設置）です。生命工学科・発生工学研究センターならびに学内外の不妊治療施設と協力して、マイクロマニピュレーターを用いる顕微授精や胚凍結等の生殖補助医療技術の習得を含む生殖補助医療（不妊治療）分野の教育研究を行います。

■ ワイン科学研究センター

日本のワイン科学分野をリードする研究センターです。75年以上の歴史があり、日本のワイン科学の教育と研究の拠点になっています。地域食物科学科の「ワイン科学特別コース」では、ワイン造りに情熱を抱き、ワイン業界をリードできる高度な専門知識と技術を持つ人材を育てます。

■ 国際流域環境研究センター

水資源の枯渇、水災害、水環境の悪化、水に起因する病気など水にかかわる問題に対応するための研究を行っているセンターです。アジアを主として、ヨーロッパ、オーストラリア、アメリカやアフリカの大学・研究機関と連携し、国際的な研究と教育（流域環境科学特別教育プログラム等）を行っています。

15

16

進路・キャリア教育

2024年度進路情報

■ 学部

学 科	卒業者数	進 学	就 職	就 職 先
生命工学科	37	29	8	株式会社ARIMINO、株式会社サンフーズ、株式会社新日本科学、株式会社フォーカスシステムズ、株式会社インターネットイニシアティブ、三生医薬株式会社、トヨタ紡績株式会社、甲州市役所
地域食物科学科	32	9	18	JA全農、あみ印食品工業株式会社、エヌシーアイ総合システム株式会社、株式会社アセラ、株式会社クスリのアオキ、ニプロ株式会社、シダックス株式会社、トヨタモビリティ東京株式会社、ながの農業協同組合、リバーエレテック株式会社、株式会社エスユーエス、株式会社ジーニー、株式会社ネオシステム、株式会社東京めいらく、神戸製鋼所、東京フード株式会社、山梨県庁
環境科学科	36	12	24	株式会社大気社、中部電力株式会社、シャープ株式会社、富士急行株式会社、オイレス工業株式会社、フルハシEPO株式会社、エフサステクノロジーズ株式会社、オリオンビール株式会社、株式会社東芝、株式会社ダイキンアプライドシステムズ、株式会社テノ武田、株式会社崎陽軒、株式会社静鉄情報センター、静岡コンサルタント、鈴与商事株式会社、株式会社山梨社、株式会社アルマビアンカ、株式会社アエナ、あいち豊田農業協同組合、静岡県経済農業協同組合連合会、静岡県庁、富士宮市役所、調布市役所
地域社会システム学科	47	1	44	イオンリテール株式会社、株式会社ウィルオブ・コンストラクション、株式会社カチタス、株式会社クスリのアオキ、株式会社小糸製作所、株式会社清水銀行、株式会社ジャストシステム、鉄道情報システム株式会社（JRシステム）、東京エレクトロン株式会社、東京地下鉄道株式会社（東京メトロ）、日立システムズ株式会社、株式会社山梨中央銀行、インフォコム株式会社、株式会社エル・トラスト、株式会社オザノ、かんぼシステムソリューションズ株式会社、サイバーコム株式会社、静銀ティエム証券、東京セキスイハイム株式会社、株式会社トプテック、中日本高速道路株式会社（NEXCO中日本）、株式会社星野リゾート、山梨交通株式会社、株式会社レオパレス21、株式会社浜友A.L.、KEIPE株式会社、NECネットエスアイ株式会社、NTT・TCリース株式会社、RADIX株式会社、株式会社YSK e-com、山梨県庁、長野県庁、横浜市役所、荒川区役所、白山市役所、山梨大学、JA共済連（山梨）

■ 大学院（修士課程）

	コース	修了者数	進 学	就 職	就 職 先
生命環境学専攻	バイオサイエンスコース	22	1	21	IQVIAサービシーズジャパン合同会社、IVFなんばクリニック、アドバンテック株式会社、医療法人社団 偲IVFクリニック、株式会社インテージ、株式会社シーボン、株式会社山梨県環境科学検査センター、京野アートクリニック高輪、シマダヤ株式会社 開発研究所、シミック株式会社、ニプロ株式会社、フジクリーン工業株式会社、富士通株式会社、メディサイエンスプランニング、ユニオンチーズ株式会社、三井情報株式会社
	食物・ワイン科学コース	11	0	11	きた産業株式会社、協和樹脂工業株式会社、ドーバー洋酒貿易株式会社、ホクト株式会社、マルハニチロ 株式会社、株式会社 プルボン、株式会社 都農ワイン、株式会社ゴールドウイン、株式会社海琳堂、日清ヨーク株式会社
	地域環境マネジメントコース	6	1	4	株式会社神鋼環境ソリューション、日本キャリア株式会社、富士電機株式会社、株式会社JM
工学専攻	流域環境科学特別教育プログラム	4	0	3	株式会社建設技術研究所、クリタス株式会社、パナソニックインダストリー株式会社

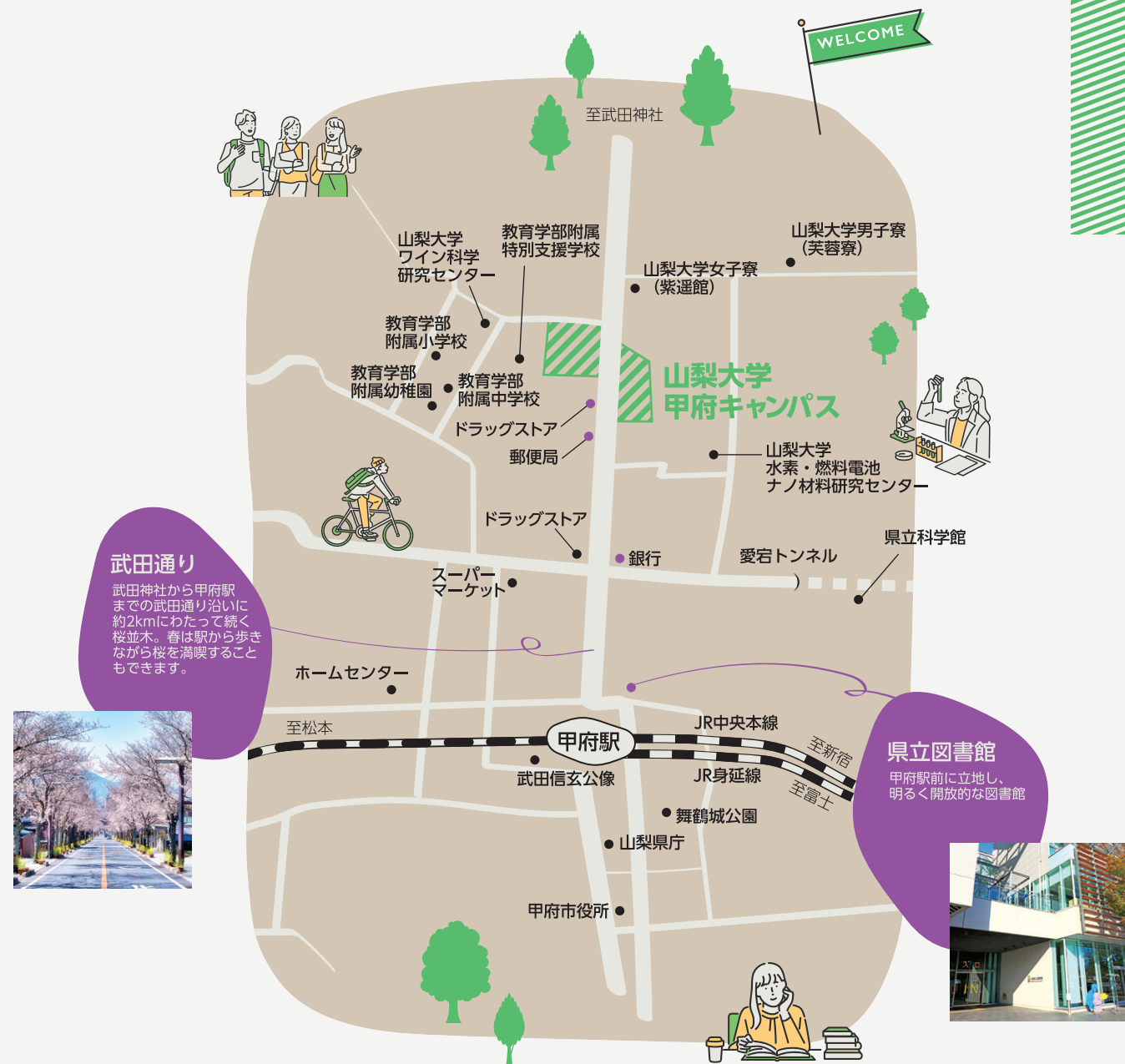
山梨大学では就職や大学院進学など将来へ向かう学生を全力でサポートする体制が整っています。

1年次	2年次	3年次	4年次	卒業・社会人へ
キャリアデザインⅠ (自己理解) 職業興味や能力など、自分自身をより深く知ることを目指す	キャリアデザインⅡ (仕事理解) 各分野で活躍する社会人の講義を聴き、業界や仕事の理解を深める	キャリアデザインⅢ (キャリアビジョン) 社会情勢を理解し、自らのキャリアビジョンを表現する	就活セミナー 就活に必要な知識・テクニック・マナー等を身に付ける	
進路・就活 スタートガイダンス 今やっておくべきこと、ホットな話題を提供	業界・企業研究会 業界や企業担当者から、最新の動向・情報などをチェック	合同企業説明会 企業の採用担当者より話を聴き、自分が応募したい企業を探す	面接対策講座 企業・公務員など志望先に合わせきめ細かく指導	

学部独自のサポートも行っており、就職活動を経験した4年生と、これから活動を始める3年生の座談会を開催し、先輩の実体験から就職活動に臨む心構えやノウハウを学ぶことのできる機会を設けています。また、就職活動の第一関門であるエントリーシートの作成について、外部専門家による添削サービスを導入しているほか、より継続的な支援体制を整えるために、1,2年生向けの就職支援セミナーも開催しています。

周辺・アクセス情報

甲府キャンパス周辺は、生活に欠かせない施設がコンパクトにまとまっています。



山梨大学へのアクセス ACCESS

電車・バス

新宿 ▶ 甲府駅

 JR中央本線 特急「あずさ」または「かいじ」で最速85分  新宿駅南口「バスタ新宿」より最速119分

名古屋▶甲府駅

① JR中央本線（塩尻駅経由） ② 東海道新幹線～JR身延線（静岡駅経由） JR名古屋駅前バスセンターより約240分

甲府駅▶甲府キャンパス

 甲府駅北口2番バス乗り場より「武田神社」または「積翠寺」行き約5分、「山梨大学」下車 甲府駅北口より武田通りを北上、徒歩約15分

車

東京▶甲府キャンパス

🚗 首都高新宿線～中央自動車道：甲府昭和ICで下りて、一般道を北東の方角へ。

名古屋▶甲府キャンパス

🚗 東名高速～中部横断自動車道～中央自動車道：甲府昭和ICで下りて、一般道を北東の方角へ。

